

## 答辞

寒さをしのいできた木々が芽吹き始め、春の訪れを感じるこの良き日に、私達は卒業式を迎えました。本日は、このような式典を催していただき、私たちの門出を祝してくださることに、卒業生一同、心より厚く御礼申し上げます。

二千八年四月の入学から早四年、武蔵大学での学生生活を通し、多くのことを学び成長できたと思います。

大学進学に際し、私は経営学を専攻する道を選びました。以前から会社経営に興味を持っていたことがその理由です。入学後授業で様々な会社経営のケーススタディーを経験しました。これにより新しい知見を得て、そこからさらなる疑問が日々湧き上がってきたことを鮮明に覚えております。先生方は私のつたない質問に懇切丁寧に答え、指導してくださいました。とりわけ、学問の意義や学業を通して得た知識を後世に伝えて行くことの重要性などを学ばせていただきました。単に学術的な知識を身につけるだけでなく、自身の将来について深く思索する貴重な機会でもあったと思います。人生の指針を確立できたのも武蔵大学で学生生活を送ったからです。

三年次のイギリスへの交換留学では、単に英語能力の向上や専門分野の研究にとどまらず、多くのことを吸収できたと思います。国際社会で生きて行くとはどういうことなのか、国際社会で生きていく上で自身に必要なことは何かを身をもって学ぶ、大変貴重な経験となりました。国際センターの方々、交換留学に携わっておられる先生方のご助力もあり、留学当初に掲げていた目標を自分なりに達成出来たことを嬉しく思っております。

武蔵大学では、学生の個性を尊重する場が多く存在すると思います。私達学生は皆、一年次から始まるゼミナールで、自ら調べ自ら考える力を培いました。学部横断型課題解決プロジェクトや他学部の講義への参加を通し、学部を越えた交流をした学生も数多くいると思います。小規模な武蔵大学で過ごした私達だからこそ享受できる特権でしょう。学業以外でも、サークル活動や白雉祭の運営に携わり、組織をまとめ上げるという重要な役割を担った学生もいると思います。

このような充実した学生生活を送ることが出来たのも、ひとえに大学関係者の方々、特に学科の先生方、職員の皆様、同級生・先輩・後輩、そして両親を含む全ての方々のご支援のおかげと、心から感謝しております。

武蔵大学の前身である旧制武蔵高等学校を創設された根津嘉一郎氏は「社会から得た利益は社会に還元する義務がある」という信念のもと教育事業に力を注がれたと聞きます。私達は、小学校から大学まで、生まれてから二十年以上もの間、社会から実に多くのものを授かってきたと思います。社会から得てきたものを、今度は私達が何らかの形で返す立場にいます。ある人は科学の分野で、ある人は経済や金融の分野で、またある人は法律や政治の分野で社会貢献をするかもしれません。各人の活躍する舞台こそ異なれ、一社会人、一日本人、またこの世界に生まれた一人の人間として、次世代、百年後、千年後の子孫にも誇れる規範を示すべきでないでしょうか。私達が今後示す規範は脈々と将来の人々に受け継がれて行くことでしょう。どの分野で社会に貢献して行くにしても、私たちはここ武蔵大学で培った経験をもとに、自身の力を最大限発揮していきます。

最後になりましたが、武蔵大学の今後益々のご発展と、皆様方のご健勝をお祈りし、卒業生を代表して私の挨拶とさせていただきます。

平成二十四年三月二十二日  
武蔵大学第六十回卒業生代表  
経済学部経営学科